

北上川に架かる橋のご紹介～千歳橋のあゆみ～

千歳橋

千歳橋は、一関遊水地の下流側に位置しており主要地方道一関大東線として国道343号につながり、一関市から陸前高田市へ至る県南内陸部と沿岸部を結ぶ重要な道路の一つになっています。

明治17年頃

●狐禅寺川岸に地元有志で渡船場を開設

明治37年
 ↓
 昭和21年

●明治37年、県南地方の北上川に架けられた最初の橋となる舟橋が完成
 13隻の舟をつなぎ、その上に橋桁を敷くという構造になっており、舟橋と呼ばれていました。水位の増減によって橋面が上下する所を人や馬車、車が通行していました。当時は、国道284号もないため重要な路線でした。



昭和初期の舟橋



あいぽーとに展示されている舟橋の模型



流失した舟橋

昭和22年

●カスリン台風により甚大な被害を受け、舟橋は流失
 ●木造板橋に架け替え

昭和23年

●アイオン台風、そして昭和24年のキティ台風と相次ぐ被害を受け、木造板橋は流失



台風により流失した木造板橋

昭和26年

●県初めての試みといわれる潜水式の木造板橋が秋に完成
 通常水位より約3mという高さだったため通行止めになる期間が年間約90日（4日に1度）という橋でした。また、増水の都度潜水するので通称「もぐり橋」と呼ばれていました。

昭和33年

●木造板橋から鉄筋コンクリート橋のもぐり橋へと改良
 約1mの嵩上げ改良が行われ、これにより通行止め期間は年間約30日へと激減しました。その後、昭和53年に現在の千歳橋となるまで20年間使用されました。このもぐり橋を実際に通ったという方も多いのではないのでしょうか。



完成当時の鉄筋コンクリート橋



増水で水没したもぐり橋



水没している橋を渡る車

昭和53年

●約430mのトラス橋が完成
 交通量の増加と車両の大型化に伴う交通情勢に対応できなくなり新時代に適応した橋梁の改築に着手、併せて関連取付道路、橋梁の新設改良事業が行われ、6年の歳月をかけ完成しました。
 千歳橋のたもとは、歴史を後世に伝える石碑が建立されています。



現在の千歳橋



たもとにある石碑

編集後記

普段何気なく通っている千歳橋にこんな面白い歴史があるなんて驚きながら編集していました。舟橋は、なかなかスリルがありそうです。当時の人は当たり前に通っていたのでしょうか…。(と)